ANNUAL REPORT 2019

特定非営利活動法人ターサ・エデュケーション

年次報告書

2019 年度

2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日

すべての子どもたちが
未来にときめく社会に

TASA EDUCATION
ターサ エデュケーション

01 目次
02 代表あいさつ
03 子どもたちの今
04 ビジョン・ミッション
05 子どもの貧困と社会課題
06 Note Movies について
07 社会的養護の現状
08 フレーベンについて
09 不登校問題について
10 SAME BOAT について
11 フリースクール こらんだむについて
13 みなさまからの ご支援について

PICKUP REPORT

事業報告会 2020 開催 !!

2020 年 7 月 19 日（日）に開催した、事業報告会のアーカイブ動画を準備いたしました。下記 URL より御覧ください。

https://youtu.be/pgGeZCPXy90

～代表あいさつ～

NPO 法人ターサ・エデュケーションにご関心、ご支援をいただきありがとうございます。
私がターサ・エデュケーションを設立したのが 2015 年。
私自身の原体験から生まれた NPO 法人は 5 周年を迎えることができました。
設立当初私にあったのは、
「子どもが生まれた環境により将来が左右されてしまう状況を何とかしたい。」
その想いだけでした。そのために必要な支援を考え、試行錯誤しながら少しずつ実施し、活動を広げてきました。

気づけば 5 年間で 300 人を超える仲間と一緒にのべ 6,000 人を超える子どもたちに支援を届けることができました。

これも私が抱いた勝手な想いを受け止め、理解し、共感してくれた皆様が支えてくれたからです。
本当にありがとうございます。

しかしながらいまだ 7 人に 1 人の子どもが貧困であり、不登校は 19 万人を超えました。
さらに児童数は毎年減少傾向にあり、子ども 1 人 1 人の価値は相対的にも高くなっています。

つまり私たちが対峙する子どもへの支援は福祉ではなく、未来への投資なのです。
彼らが社会的自立をはかることは将来の担い手を増やすことにつながり、それは私たちの未来にもつながります。

そのために私たちは子どもたちが自分自身に期待し、将来を楽しみにできる社会を目指し、これからも子どもたちの可能性を広げ伸ばす支援を継続していきます。

子どもたちが未来にときめく社会を創るため、子どもの可能性をフェアにする。
そのためにみんなで社会で子どもを育てる“協育”を実現します。

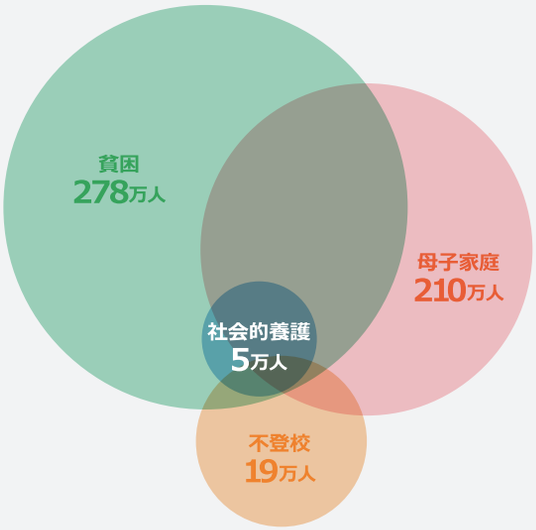
今後とも変わらぬご支援ご協力、何卒よろしくお願いいたします。

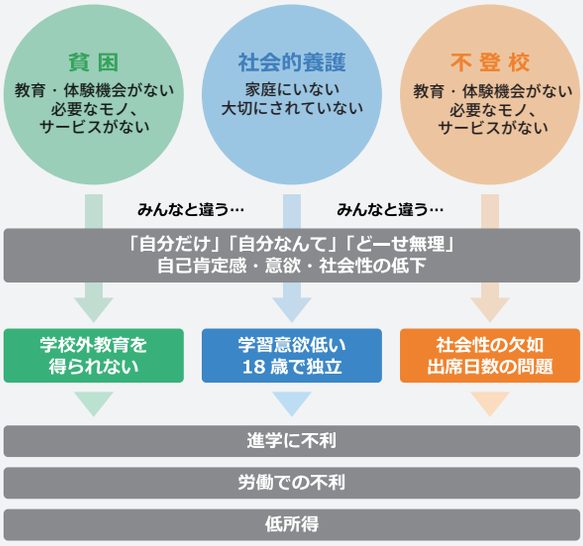
NPO 法人ターサ・エデュケーション

代表理事　市村均光

～子どもたちの今～

子どもの貧困、児童虐待、不登校等、子どもを取り巻く現状がとても不安定になっていることをニュースなどで感じている方も多いのではないでしょうか。現在７人に１人の子どもが貧困状態に置かれ、児童虐待は 13 万件、不登校は 19 万人を超えています。



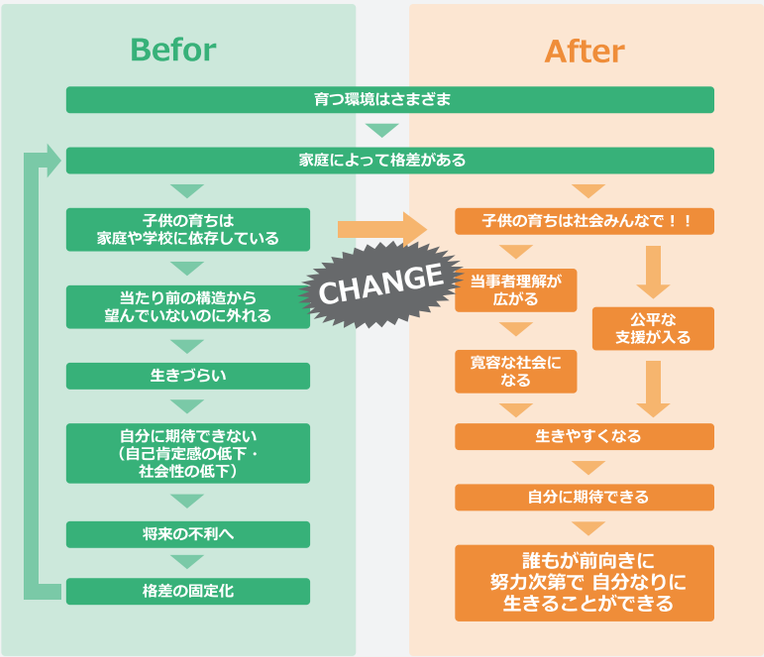


左記の状態にある子どもは現状に苦しみ、そして今のままだと未来でも苦しむことになってしまいます。なぜなら彼らの多くは「自分は他の子と違う」「自分には価値がない」そんな劣等感を抱き、将来の自分自身に期待することができないからです。

子どもは社会の宝だから。未来を作っていくのは子どもたちなのだから。

子どもたちが自分の未来を楽しみに出来ない社会なんて絶対におかしい。

そう思うから、私たちターサ・エデュケーションはソーシャルチェンジに挑戦します。



Vision　私たちが目指している社会

すべての子どもたちが
未来にときめく社会に

Mission　課題解決の為に果たす使命

子どもの可能性をフェアにする

だれでも学べる

Note Movies

教員が撮影した無料学習動画の WEB 配信事業

社会で応援する

フレーベン

養護施設に住む子どもを対象にした個別学習支援

孤立をつなげる

SAME BOAT

生きづらさを抱える親子をつなげるイベント開催

学びの選択肢をつくる

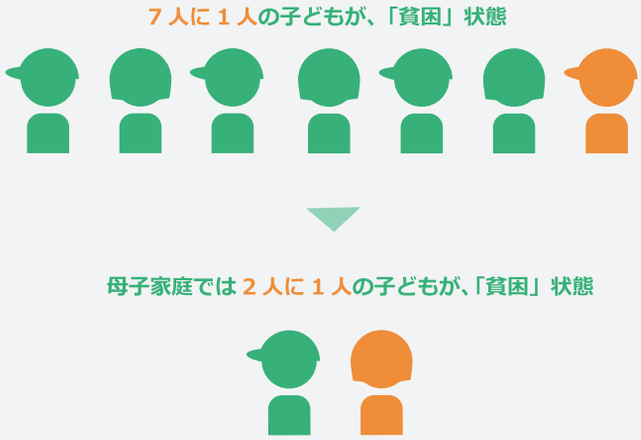
フリースクールこらんだむ

不登校の小中高生を対象とした居場所の運営事業

～子どもの貧困と社会課題～

日本が抱える子どもの貧困問題は、衣食住など必要最低限の生活水準が満たされていない絶対的貧困ではなく、その国の中の生活水準に対して適正な水準での生活が難しい相対的貧困です。

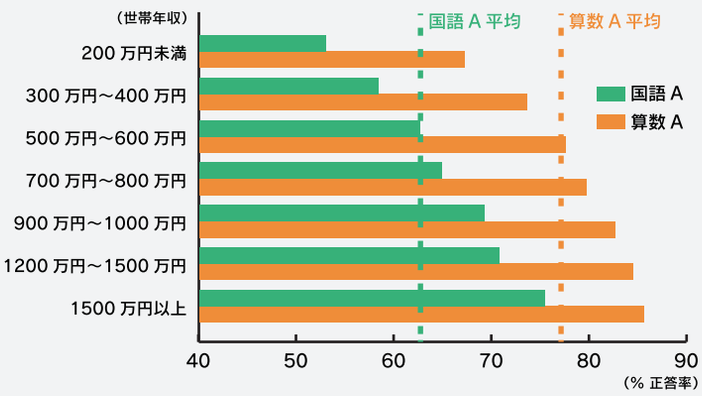
※相対的貧困の定義：年間の手取りの中央値の半分以下で暮らしている状態
(例) 親子 2 人世帯 (ひとり親世帯) の場合年間 170 万円
現在 7 人に 1 人の子どもが貧困状態にあり、母子家庭に限ると 2 人に 1 人の子どもが貧困状態となっています。



貧困により子どもの教育機会は制限され、学力や進路にも大きな影響を与えます。
結果として、その子どもの家庭が再び貧困に陥る可能性が高くなります。

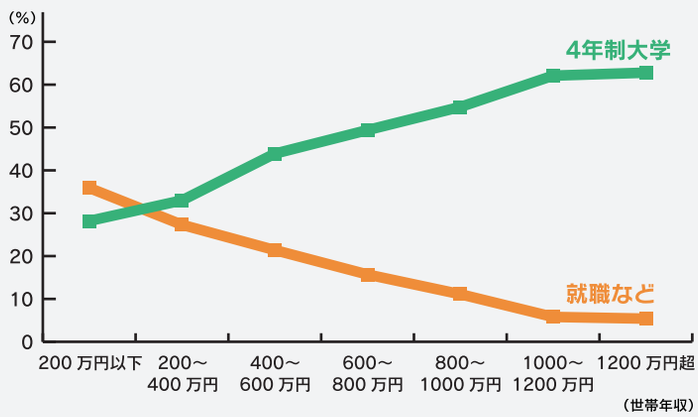
世帯収入と子どもの学力の関係（対象：小学 6 年生）

出典：国立大学法人お茶の水女子大学「平成 25 年度全国学力・学習状況調査（きめ細かい調査）の結果を活用した学力に影響を与える要因分析に関する調査研究」



世帯収入と高校卒業後の予定進路

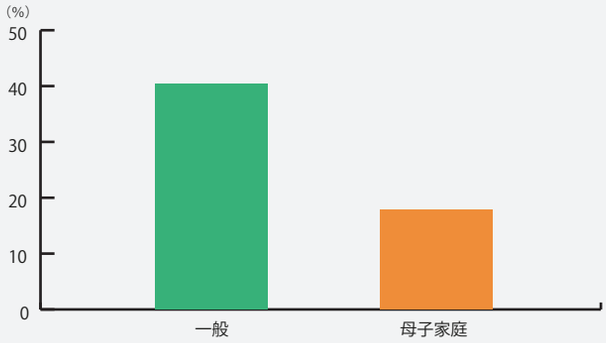
出典：東京大学大学院教育学研究科，大学経営・政策研究センター「高校生の進路と親の年収の関連について」



自宅で勉強をすればいいと考える方もいるかもしれません。
しかし、貧困家庭の多くは学校以外に学習する環境がなく、また保護者が学習をサポートする時間を取ることができません。
だからこそ、私たちは子どもたち誰もが努力次第で将来を開いていける状態を作るために、社会でみんなで、子どもたち誰もが学ぶことのできる環境を整備することが必要であると考えています。

親が平日 1 日あたりに子どもと 6 時間以上過ごす家庭の割合

出典：独立行政法人 労働制作研究・研修機構「子どものいる世帯の生活状況および保護者の就業に関する調査」



だれでも学べる

Note Movies

教員が撮影した無料学習動画の WEB 配信事業

◆事業の目的

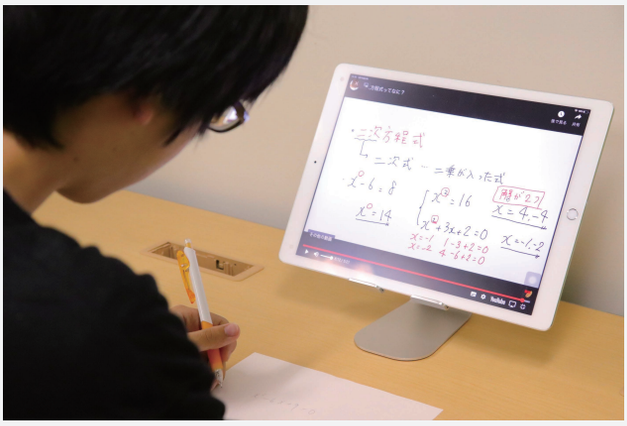
誰しもが公教育で必要とされる学習を定着できる状態を作るため、学びのインフラを整備する。

◆事業の内容

教員が撮影した学習動画を WEB サイトや YouTube を通じて無料配信しています。

運営サイト名：ノートムービーズ

URL　https://note-movies.com

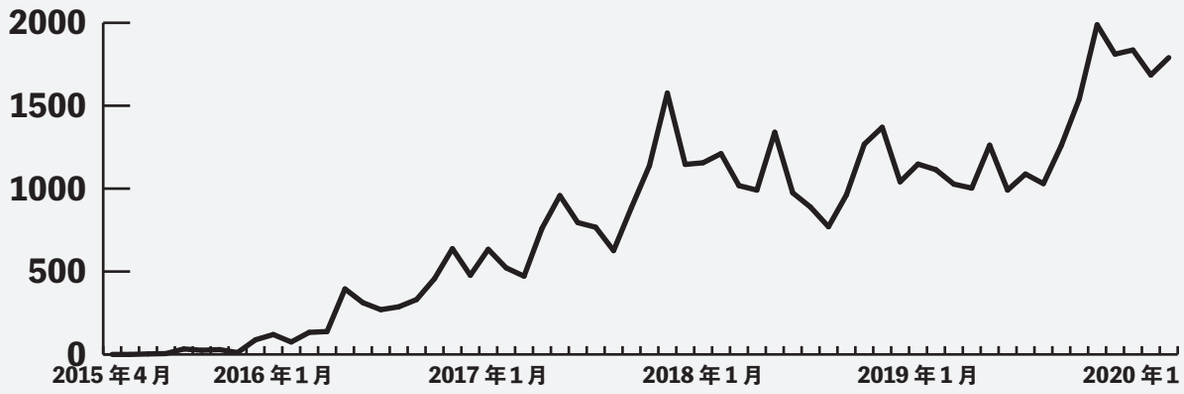


2019 年度の成果

本年度は新規に動画を 4 つ公開し、年間視聴回数は 17,284 回となりました。例年に続き、行政に対しては教員が撮影する動画を通じて学ぶというインフラ提案を行い、事業拡大に取り組みました。

（通算実績）

動画数：93 個（2020 年 3 月末現在）　　動画視聴回数：47,668 回（2020 年 3 月末現在）



2020 年度の目指す姿

2020 年初めより新型コロナウイルス感染が広がり、多くの学校が長期間休校状態となりました。その結果オンライン教育が急速に普及し始めました。この状況を拡大の好機と捉え、学びのインフラの一助を担うために、ひき続き動画撮影協力者を募り、動画数を充実してまいります。

～社会的養護の現状～

社会的養護とは、虐待や生活困窮等を理由に家庭で育てることができない児童を公的責任で社会的に教育することです。現在、児童養護施設等に入所している社会的養護児童は 43,229 人 (2017 年) おり、多くの子どもたちは本人の能力や意思とは関係なく学習が遅れています。

家庭
虐待や育児放棄などで学習に取り組める環境ではなく自己肯定感が育まれにくい

▶

一時保護所
保護のために外出が禁止とされており、長いと 3 ヶ月ほど学校に行けない環境

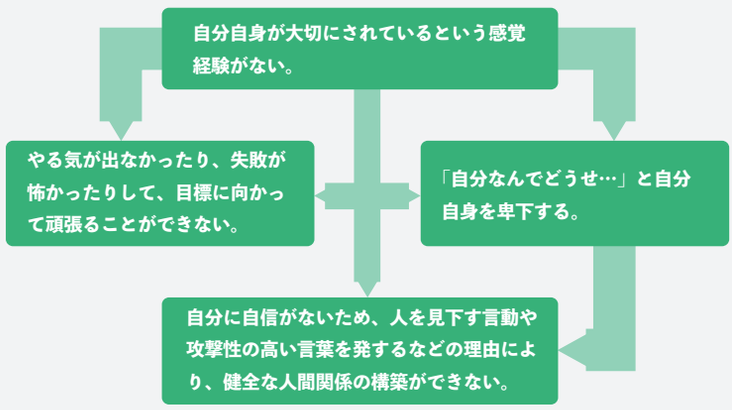
▶

転校
ほとんどの場合転校が強いられ教科書や学習速度が合わず、環境にも慣れづらい

▶

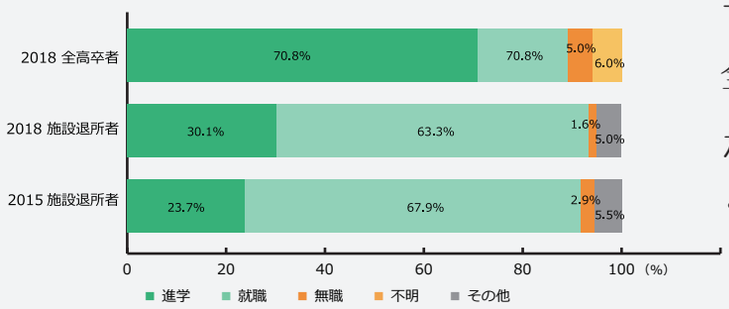
児童養護施設
新しい生活環境に慣れない上に職員の多忙さ学習費が充分ではなく、遅れを取り戻しづらい

学習が遅れても努力次第でどうにかなる、やればできる。そう考える人もいるかもしれません。ただ、社会的養護児の多くは親から十分な愛情や時間をかけられておらず、「自分にはどうせできない」と自らを卑下してしまいます。そんな想いや感情を持っている場合、何事に対してもやる気になれなくなってしまい、当然学習についても前向きに取り組むことが難しくなってきます。



2015 年、2018 年施設退所者と全高等学校卒業者との比較

出典：特定非営利活動法人プリッジフォースマイル「全国児童養護施設調査 2018 社会的自立と支援に関する調査」



その結果、社会的養護児の大学進学率と全国平均には大きな開きがあり、子どもたちの進路や可能性が狭まっているという現状があります。

児童養護施設の人員配置の最低基準（厚生労働省）

出典：厚生労働省資料「児童養護施設等について」

子ども数：職員数	～2011 年	2012 年～
0 歳児	1.7:1	1.6:1
1 歳児	2:1	1.6:1
2 歳児	2:1	2:1
3 歳児以上幼児	4:1	4:1
小学生以上	6:1	5.5:1

児童養護施設等で働く職員の方々もこの状況は理解していますが、あまりに多忙であり、職員数が足りないことから一人一人の子どもに対して時間をかけてサポートすることができていません。

社会で応援する

フレーベン

養護施設に住む子どもを対象にした個別学習支援

◆事業の目的

環境による能力格差を補い、受益者である子どもたちの学力向上と学習定着を図るとともに、自信を持って一歩前に進めるよう働きかける。

◆事業の内容

群馬県内の児童養護施設に入所している子どもたちと、『学習を通してふれあい、自立を応援する』活動です。

2019 年度の成果

2019 年度は大きく事業が成長する年となりました。これまで継続的に実施を行っていた地行園様（前橋市）に加え、希望館八幡の家様（高崎市）でも事業の実施を行いました。両施設で合計 10 名の小中学生へ支援を行いました。

単発支援 ▶ **継続支援**

また、継続的に実施をする観点からボランティア説明会を開催することで登録者数は 84 名に上り、支援をするにあたり強固な基盤体制を構築することができました。

児童養護施設　希望館八幡の家 様（高崎市）

２０１９年７月より **5** 名の小中学生へ

児童養護施設　地行園 様（前橋市）

２０１９年９月より **5** 名の小中学生へ

2020 年度の目指す姿

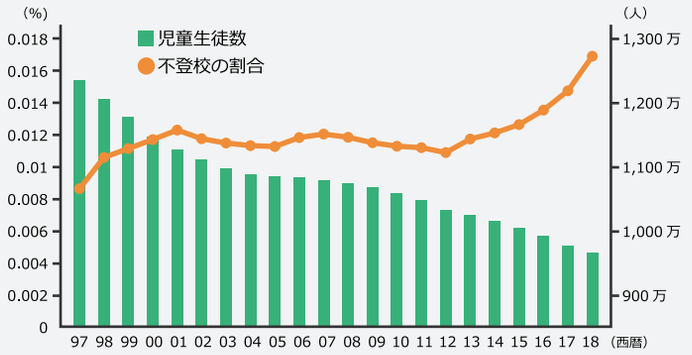
2020 年度は、事業を提供できる児童養護施設を拡大させるとともに、効果の高い勉強法やルーブリック評価を軸とした総合的な評価基準を確立し、子どもたちにより質の高い支援を提供していきます。

～不登校問題について～

不登校とは、何らかの社会的要因により年間 30 日以上学校を欠席することです。
現在、不登校児 (小中学校) は増加を続け過去最高の 16 万 4528 人 (2018 年) になっている一方で、児童数 (小中学校) は過去最小の 982 万 851 人 (2018 年) となっており、不登校児の割合は大きく増加しています。

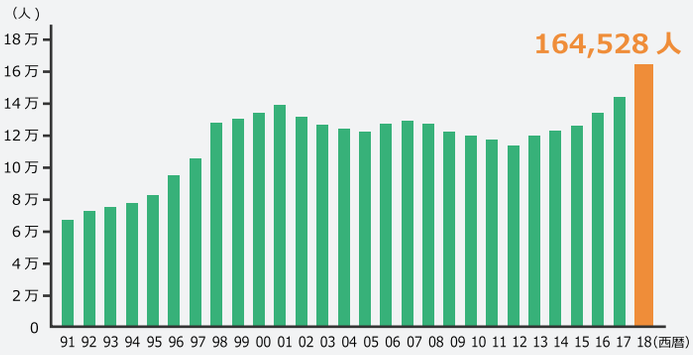
小中学校全児童生徒数と不登校の子の割合

出典：文部科学省
「平成 30 年度　児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果の概要」



小中学校不登校の児童生徒数の推移

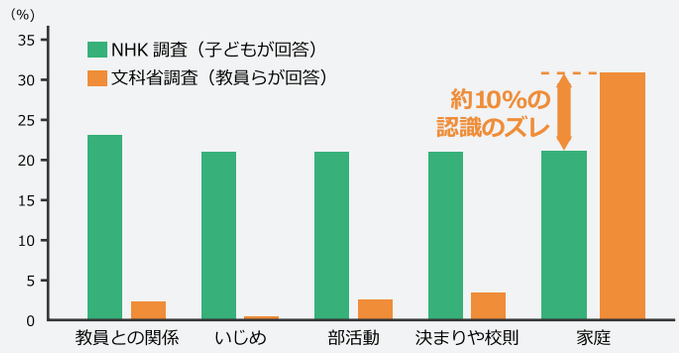
出典：文部科学省
「平成 30 年度　児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果の概要」



不登校になる理由はさまざまな要因があり、学校と当事者の間でも認識は大きくずれています。
こうした認識のズレが不登校児を生きづらくしているのかもしれません。
そして、多くの不登校児は学校でも家庭でもない居場所を求めています。

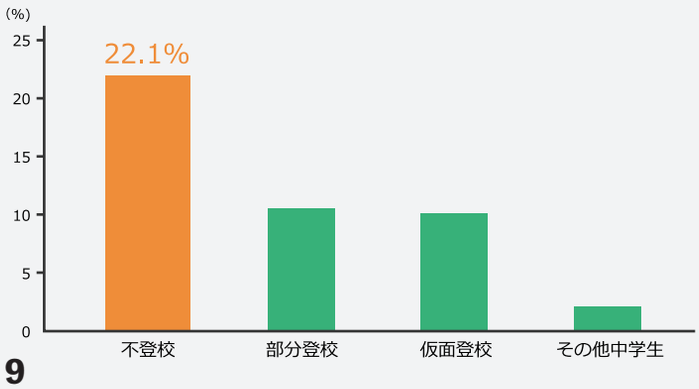
不登校の要因に関する NHK 調査と文科省調査の比較

出典：不登校新聞記事「中学生に直接聞いた不登校理由、国の調査と大きな隔たり」



学校と家に「居場所がない」と回答した中学生の割合

出典：不登校新聞記事「「生きていることが辛い」不登校の中学生にＬＩＮＥで調査」



そのため、私たちは不登校児に価値ある時間を過ごしてもらうためにも、社会に認められた学校ではない居場所や学び場、そしてそこから生まれるつながりや学びを提供することが必要であると考えています。

孤立をつなげる

SAME BOAT

生きづらさを抱える親子をつなげるイベント開催

◆事業の目的

学校に行けないことなどから、社会から孤立し生きづらさを感じている子ども・保護者に対して、野外イベントや講演会を通して、当事者間の繋がりを作るきっかけを提供することで、彼らの明日が今よりも生きやすくなる状態とする。

◆事業の内容

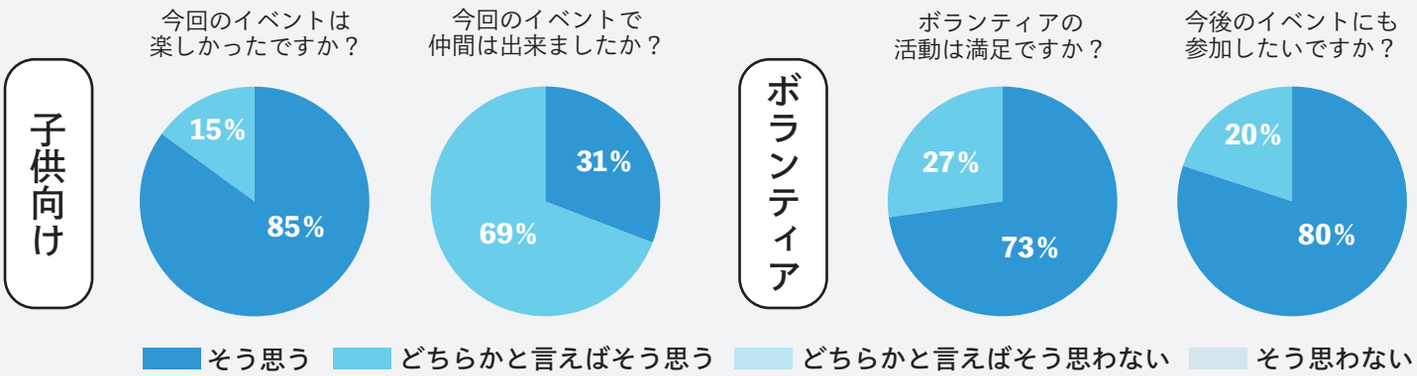
児童向けのイベントとして、散策をしながらアトラクション体験を行うとともに、保護者・一般参加者向けのイベントとして、講演会を実施しました。

2019 年度の成果

保護者 30 名　児童 18 名　一般参加者（講演会参加者）8 名

児童同士、児童とボランティアで会話する様子も多く見られ、交流する機会を提供できました。

保護者と一般参加者へは不登校経験者の実体験に基づく講演を提供することができました。



参加保護者の声

同じ悩みを持った保護者同士でつながりを持てたことで子供の将来について前向きに捉えることができた、子どもの気持ちがわかった、尊重したいなどの声がありました。

2020 年度の目指す姿

より一層、孤立している当事者へ届くように積極的に広報活動を行っていく。

また、参加する親子が、気兼ねなく参加することで安心感・満足度の高い集いの場をつくる。

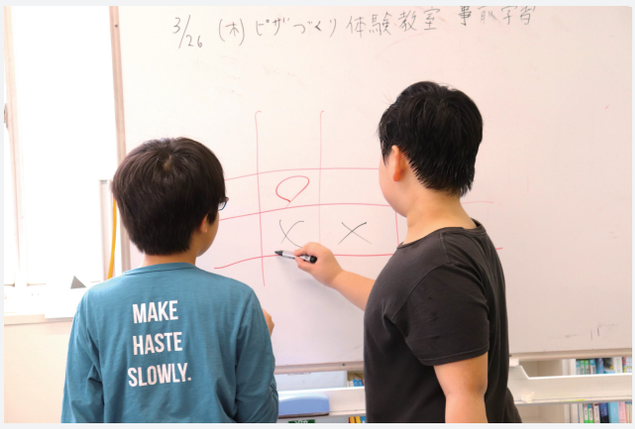
目標参加組数：50 組

学びの選択肢をつくる

フリースクールこらんだむ

不登校の小中高生を対象とした居場所の運営事業

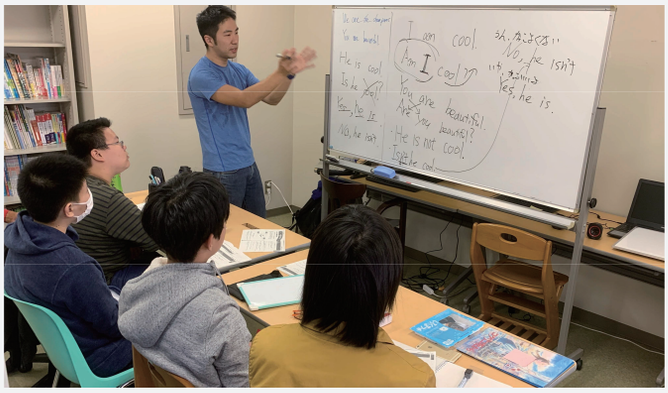
◆事業の目的
学校に行かなくても社会的自立ができる状態をつくるため、学び場の選択肢をつくる。
◆事業の内容
群馬県前橋市にて、不登校の小中高生を対象としたフリースクールの運営事業を行っています。学校外の安心安全な居場所を前提として、子どもたちの個性に寄り添う様々なプログラムを提供しています。



2019 年度の成果

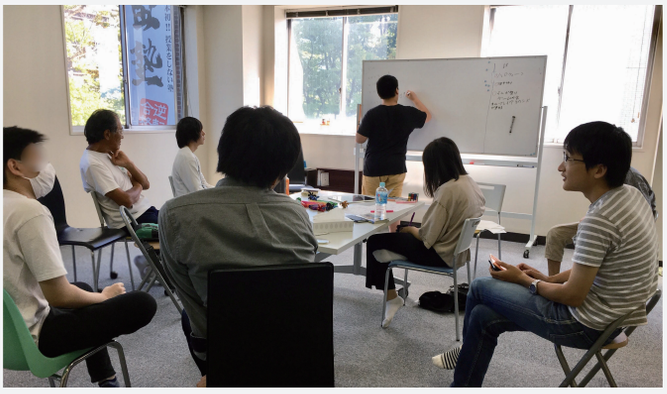
群馬県内の不登校の子どもたち 20 人に安心して学び、成長できる場を届けました。
私たちには、子どもたちが学校に行かないという選択肢を選んでも、将来自立できるようにしたいという想いがあります。その一方で、まず私たちが一番大切にしていることは、この場所が子どもたちにとって安心安全な居場所となることです。安心安全な居場所とは、子どもたち自身が「自分がいてもいい」と感じられる居場所です。私たちはありのままの子どもたちを受け入れて、子どもの良いところを褒めたり、興味を持って話していく姿勢を継続しています。

2019 年度は、中学三年生が高校受験を経て高校進学をしたり、元気になり学校に復帰した子どもも多数います。不登校になったことが無駄ではなく、子どもたちにとって価値ある時間、そして将来につながるように、これからも私たちは安心安全な居場所を前提としつつ、子どもたち一人一人に寄り添ったサポートができるように小さなことから積み重ねていきたいと思います。



多種多様な学びのプログラムを月に 30 以上子どもたちに届けています。

基礎学力獲得に向けた学習環境を整備し、集団授業やオンライン学習サービスを導入し個々の進捗に応じて学習を進める体制を整えています。また、子どもの持つ可能性を伸ばす為に、プログラミング教室や美術教室など月に 30 以上の様々なプログラムを実施し、興味・関心を深堀りする場を作っています。子どもの自立を育むために県内の企業様にご協力いただき、事前ワーク・就業体験･振り返りワークなどを行う就業体験プログラムも実施しています。カフェや薬局､工場､農業などあらゆる分野で就業体験を実施しています。このようなプログラムを体験することで、自分の将来や興味のあることを具体的に思い描き、一歩を踏み出しやすくなりました。



「子どもの想いを受け止めて個性を伸ばす」40 人との関わりで斜めの関係ができました。

こらんだむの強みは、子どもたちの人生の先輩である多種多様な優しい大人との斜めの関係がたくさんあることです。子どもが入会すると、40 人程度の様々な優しい大人と繋がります。自分の気持ちをわかろうとしてくれたり、関心を示したり、やりたいことを心から応援してくれる大人と繋がります。時には自分の深い気持ちを打ち明けたり、一緒に進路について考えたりもします。私たちの立ち位置としては、子どもが自主的にやりたいと思っていること、あるいは子ども自身の持つ意志や想いを尊重して、必要に応じてサポートをし、個性や学びを深める存在であることを目指しています。

2020 年度の目指す姿

1. 子どもたちの個性を伸ばし、自立につながるプログラムの充実
2. 一人一人の子どもの変化を可視化する指標（ルーブリック）の作成
3. スタッフ・ボランティア向けの専門研修（障害理解等）の充実

TAASA EDUCATION
は「ご寄付」によって支えられています。

「お金が必要なんです。」このように率直に言う NPO 団体は少ないと思います。正直に言えるのは、実施体制が整っていて、やり切る覚悟があるから。だから、私はターサを応援します。

自治体職員

平良 文康 さん

子どもたちは、生まれてくる環境は選べないけれど、一緒に考える大人もいて、生きているといいこともたくさんあることを伝えたいです。だから、寄付で応援できることが嬉しいです。

団体職員

大澤 直子 さん

ご支援・協働いただいた企業・団体のみなさま

NPO法人モバイル・コミュニケーション・ファンド
ドコモ市民活動団体助成事業

フリースクール基盤整備

2019 年 9 月から 2020 年 8 月

助成金額　700,000

独立行政法人医療福祉機構
子供の未来応援基金事業

経済的な困難を抱える不登校の子供へのフリースクール事業

2019 年 4 月から 2020 年 3 月

助成金額　2,959,000

群馬 NPO 協議会
NPO 法人向け組織基盤強化助成金事業

ファンドレイジング事業

2019 年 7 月から 2020 年 6 月

助成金額　100,000

社会福祉法人群馬県共同募金会
赤い羽根共同募金（広域）事業

県内の不登校の親子ネットワーク形成事業

2019 年 4 月から 2020 年 3 月

助成金額　270,000

NPO 法人モバイル・コミュニケーション・ファンド様から
目録授与の様子

群馬 NPO 協議会様から
目録授与の様子

連合ぐんま様から
目録授与の様子

みなさまからのご寄付でカタチになった事をご紹介

「～ いざ、学び場の選択肢へ ～　不登校の子どもたちへ ICT を活用した学習環境を提供したい / 市村 均光のバースディドネーション」と題して代表理事の誕生日に併せてバースディドネーションを実施しました。バースディドネーションとは、誕生日プレゼントの代わりに寄付を集めるクラウドファンディングです。約1ヶ月で494,097円を集めることが出来ました。後日フリースクールこらんだむ内に ICT 学習教室を整備いたしました。

バースディドネーションの様子　提供：Syncable

フリースクールこらんだむ内に整備した ICT 学習教室

あなたも一緒に活動する仲間になりませんか？

「一緒に社会を創りませんか？」私たちターサ・エデュケーションでは、一緒に活動する仲間を募集しています！総勢 50 名以上の仲間が私たちの団体に関わっています。多様な関わり方があるからこそ自らが選んだ関わり方で活動できることが魅力です。ぜひ、あなたの力を貸してください！

寄付を通じて支援する

都度寄付や月額寄付を受け付けております。寄付決済プラットフォームよりお申込みください。
寄付者限定特典も準備しております。

寄付者特典

- ◆ターサ・エデュケーション実績報告書をメールにて送付
- ◆ターサ・エデュケーション実績報告会無料招待
- ◆イベント開催時ボランティア情報を優先案内
- ◆ターサ・エデュケーションオリジナルステッカーを送付

つながる募金

当社では、ソフトバンク株式会社が提供する。つながる募金を利用しております。ソフトバンクユーザーの方は T ポイントや携帯電話料金と一緒での支払いにも対応しております。また、他社ユーザーの方は国内主要ブランドにてクレジットカード決済にも対応しております。下記 URL もしくは WEB サイトよりお申込みください。

https://ent.mb.softbank.jp/apl/charity/sp/careerSelect.jsp?corp=596

VISA mastercard JCB AMERICAN EXPRESS Diners Club INTERNATIONAL

クレジットカード対応ブランド

ボランティアに参加する

当法人が運営するフリースクールこらんだむやフレーベンでは常時ボランティアを募集しています。空いた時間に楽しく！子供と関わってみませんか？ボランティアプラットフォーム「アクティボ」より、確認の上お申込みください。

activo

募集ページ：https://activo.jp/users/75342

ぜひ、私たちと共に社会を創る仲間になってください！

特定非営利活動法人ターサ・エデュケーション
〒379−2117　群馬県前橋市二之宮町1291番地6

ＴＥＬ　027-226-5243
MAIL　info@tasa-education.com
ＷＥＢ　https://tasa-education.jimdo.com

TASA EDUCATION